

市指定文化財 史跡 天王森古墳



- ①大^{たち}刀形
 - ②盾形
 - ③鞞^{ゆび}(矢を入れる道具)形
 - ④盾形
 - ⑤鞍形
 - ⑥巫女
 - ⑦大^{今回復元}刀形
 - ⑧盾形
 - ⑨家形
 - ⑩鞍形
 - ⑪盾形
- このほか、カシや動物埴輪などが見つかっています。

今から約1500年前、6世紀前半(古墳時代後期)に築造されたとされる前方後円墳です。下松市は、かつて「都怒国(角国、都奴国、つめのくに)」と呼ばれた地域で、その首長の墓と考えられています。

この古墳は、市街地や笠戸湾が一望できる位置にあり、平成29年に市の文化財(史跡)に指定されています。

これまで本格的な調査は、実施されておらず、埴輪は確認されていませんでしたが、宅地開発に伴う周辺工事の際に多量の形象埴輪及び円筒埴輪が出土しました。

天然の良港を有する下松市は瀬戸内航路の重要拠点として早くからヤマト王権とかかわりを持っていたと考えられています。天王森古墳は、末武平野や笠戸湾を中心に繁栄した都怒国の最盛期の頃のものと考えられ、下松市の歴史を今に伝える学術的にも価値の高い文化遺産です。

インターネットで下松市の歴史や文化を学ぼう！



下松市 郷土資料 検索

下松市教育委員会生涯学習振興課 TEL 0833-45-1870

〒744-8585 山口県下松市大手町3丁目3番3号

中四国・九州地方初復元 大^{たち}刀^ち形^{がた}埴^{はに}輪^わ



西日本有数の形象埴輪群 天王森古墳出土

天王森古墳の 大刀形埴輪

この埴輪は、復元全長120cmの大型の埴輪で、鞘に挿入された状態の大刀を表現しています。

上部には柄の構造が忠実に再現されています。柄間にはつかじり・つかばち・ろっかくせいで、そこに革製の護拳部を取り付けたものを表しており、柄縁からは水平方向に突起が伸びています。護拳部外側には一列にボタン状の装飾があります。それらに続く鞘口以下の鞘は、その大半は無文ですが、下端のみ“ひれ状の張り出し”と線刻によって小さな盾面が表現されています。

大刀形埴輪は、古墳時代後期にさかんに作られた器財埴輪の一種ですが、関東地方に比べると西日本ではそれほど出土例が多くなく、近畿地方より西の地域で全形が復元できた例は初めてで大変貴重です。

▼掘出前的大刀形埴輪(右)



▼掘出直後(柄部)



柄尻

柄

柄縁

鞘

基部

▼柄尻上から



▼柄部横から



▼護拳部正面



▼柄縁突起正面



この埴輪は、^{けいたいだいおう}継体大王の墓と推定されている大阪府高槻市^{いましろづかこふん}今城塚古墳から出土した大刀形埴輪に全体から細部に至るまで似ていることが指摘できます。このことは、^{ひろうしゅ}本古墳の被葬者が当時の王権に埴輪づくりの^{こうじん}工人を派遣してもらえるほどの実力をもった有力人物であったことを物語っています。